

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 小野寺 憲治

文 責 佐々木 正道

発行日 平成30年2月28日

平昌冬季五輪に思う

東陽中学校長 小野寺憲治

スポーツの祭典、平昌冬季五輪が開幕し連日その熱戦の様子が伝えられ、ニュース番組も含めるとかなり多くの映像が流し出されます。そして注目されている競技が始まるとテレビの前に釘付けになり、手に汗握りながら観戦しています。羽生結弦選手の金メダルの演技はその日だけでも、7度も8度も見てしまいました。大会前に怪我をして臨んだ五輪でしたが2大会連続の金メダルは国民の想像をはるかに超えるものでした。昨年11月、NHK杯前の練習で足を負傷して3か月しか経っていないにもかかわらず、この金メダルを考えると奇跡としか言いようのないものでした。試合後のインタビューでは23歳の羽生選手が話すその内容からは雄弁さが際立ち、何と素晴らしい好青年だろうと思いました。また、今大会の主将を務めた小平奈緒選手は、主将を務める選手はメダルを取れないとのジンクスがありましたが、そのジンクスをはね除け1000m銀メダル、500m金メダルを獲得しました。更に、女子団体パシュートでは「個の力」で勝るオランダチームとの戦いの末、「チーム力」で勝る日本がオリンピック記録を打ち立て金メダルに輝きました。高木美帆選手は「かけてきた時間は、どの国よりも多い」を実証してくれました。そして今大会において日本人選手初となる金銀銅メダルを受賞し、15歳で初めて五輪に出場したバンクーバー大会、その悔しさをバネに今大会は見事華開きました。

何と素晴らしいことに、この五輪には本校の卒業生である安藤麻選手がアルペン女子回転に出場していました。安藤選手は中学、高校と大回転競技では初となる6連覇を成し遂げている逸材でした。日本国内では敵なしの選手でした。川端絵美選手以来、3大会ぶりのアルペン競技での日本人選手派遣となりました。出場が決まったときには、3階多目的教室と、音楽室の窓一杯に横断幕を掲げ、全校挙げて応援しました。結果は、1本目でバランスを崩し棄権、2本目に進むことはできませんでした。でも22歳と非常に若い安藤さんは今大会の出場をバネに4年後の北京五輪で花が咲くことを期待し応援したいと思います。「安藤麻選手大変お疲れ様でした！」

4年に1度の五輪でしたが8回の出場を果たしたジャンプの葛西紀明選手、前回のソチ大会ではメダルを期待されながら4位と涙を飲んだ高梨沙羅選手は見事リベンジを果たし銅メダルに輝きました。前回と同様に男子複合ノーマルヒルで2大会連続の銀メダルに輝いた渡部暁斗選手、「ステイ・ポジティブ」の明るさとチームワークで銅メダルを獲得し「そだね～」で話題を呼んだ女子カーリングチーム等々たくさんのドラマがありました。

民族、宗教、思想・信条を超えたスポーツの祭典は大変素晴らしいもので観るもの全てに感動・勇気・希望を与えてくれるものと改めて感じました。参加する選手は表面の言葉だけでは簡単に表現できない、陰に血の滲む努力の積み重ねがあるものと思います。その結果、メダリストに輝けるのは3名だけに与えられる名誉です。世界各国の選手は基より、日本選手の活躍を通して私たちは素晴らしいものをいただいている気がします。

